

第1回共用試験歯学系OSCE外部評価者養成WSI I 報告

著者	西 恭宏
雑誌名	鹿児島大学歯学部紀要
巻	32
ページ	87-88
発行年	2012
URL	http://hdl.handle.net/10232/17061

第1回共用試験歯学系 OSCE 外部評価者養成 WS II 報告

西 恭宏

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
先進治療科学専攻 顎顔面機能再建学講座
口腔顎顔面補綴学分野

平成23年6月4, 5日に, (社)医療系大学間共用試験実施評価機構が主催する平成23年度第1回共用試験歯学系 OSCE 外部評価者養成ワークショップ(ワークショップ)が九州歯科大学にて開催され, 当歯学部の補綴系の教員として参加しました。その概要について報告します。

今回のワークショップのテーマは, 「共用試験歯学系 OSCE における補綴系, 小児・育成系課題の評価」でした。このワークショップは, ワorkshopの受講修了者で, その後に外部または内部の評価者を1回以上経験したことがある教員が対象となります(表1), 当歯学部からは私以外に, 小児・育成系の教員として小児歯科の岩崎智恵先生も参加されていました。このワークショップの目的は, 評価共用試験歯学系 OSCE の公正かつ確かな実施に資するために, 外部評価者に求められる知識, 技能, 態度を取得することが掲げられており, 内部評価経験者が受講するワークショップに対して, ワorkshopは外部評価者養成のためのものです。

参加者は, ワorkshop受講者が全国29の歯学部・歯科大学から補綴系, 小児・育成系ともに29名ずつの58名の教員, タスクフォース等の機構側のスタッフとして22名の教員と事務員, 支援協力スタッフとし

て九州歯科大学学長, 教務部長をはじめとした教員と事務員で25名の総勢105名でした。タスクフォースとして, 当歯学部歯周病学分野の野口和行教授も参加されておりました。ワークショップのグループ作業は, 7~8名の受講者で8グループ(補綴系4グループ, 小児・育成系4グループ)に編成され, 各グループともにタスクフォース2名と補助者1名が協力して進める方法がとられていたため, 105名もの人員が集う大人数のワークショップになっているものと思われました。

スケジュールは表2に示す内容で行われました。この内容を1日で行うことは可能とも思われますが, 全国各大学の教員が一堂に会して行うワークショップであることから, 各地方からの参加教員の旅程を考慮すると一日で消化することは難しいため, 第1日目(土曜日)を午後とし, 第2日目(日曜日)を午前とする

表2 ワorkshop II の実施スケジュール概要

第1日目 (6/4[土])	13:00	受付開始		
	14:00	WS 開講		
	14:10	セッション	説明	
	14:30	セッション	OSCE 評価全体演習 (15:20 ~ 15:30 休憩)	
	16:20	セッション	グループ作業 (18:35までに USB メモリ提出)	
	18:50	終了		
	19:00	懇親会		
第1日目 (6/5[日])	8:50	集合・2日目の説明		
	8:55	セッション	グループプロダクトの発表 (発表時間5分+討議3分)	
	9:35	セッション	全体演習の評価の確認	
	10:15	セッション	外部評価者の役割について	
	10:25 ~		グループ作業 (11:00までに USB メモリ提出)	
		11:05		ミニレクチャー
	11:25	セッション	質疑応答	
11:50	認定証授与, 閉講式			

表1 歯学系 OSCE 評価者養成ワークショップ (WS)

WS	内部評価者を2回以上経験した者を各大学が推薦 (従来どおり) (1回/年開催)
WS	WS 修了者で, WS 受講後に内部評価者あるいは外部評価者を1回以上経験した評価者を各大学が推薦 「アドバンスドコース」 (2回/年開催) (偶数年度:保存系, 外科系, 奇数年度:面接系, 補綴・育成系) 外部評価者は WS を修了した者で任期2年間

スケジュールで行っている旨の説明がありました。

まず、1日目の最初は、日本歯科医学会の会長でもあり、この共用試験実施評価機構の副理事長である江藤一洋先生の話から始まりました。卒後臨床研修医の資質向上のための卒前教育充実の必要性について話されたこと記憶しています。その後、セッションとして、当学部のFD研修会においても何度となく講演していただいている歯学系OSCE実施小委員会委員長の俣木志朗教授から、今回の外部評価者養成のためのワークショップについての説明がありました。これまでに外部評価者の派遣に関する問題点があったため、これを改善した新たな外部評価者の派遣方式を前年度から採用してきていることが説明されました。従来、外部評価者には機構推薦と大学推薦の2名の外部評価者で各大学のOSCEが実施されてきました。しかし、OSCEを実施する大学が他大学推薦の外部評価者の旅費等を負担していたため、この経費を軽減するべく大学推薦の外部評価者を廃止し、機構によって措置された外部評価者のみとして各課題1名にしたことの説明がありました。機構によって派遣配置を決めるため、事務的負担も簡素化されるとのことでした。また、従来、外部評価者の専門領域とOSCE実施校での評価課題の不整合もあったため、外部評価者の専門性を考慮した系統別の評価者配置方法をとることにし、さらにその専門系統での評価者養成を図ることを意図して、ワークショップを開催するようになったとのことでした。これにより、医学系OSCEの実施形態とも整合性が図れたとのことでした。さらに、ワークショップを修了した者が外部評価者となり得ることと、その任期はワークショップ終了後の2年間としているということを説明されました(表1)。

つづいてのセッションは、このワークショップのメインと思われるセッションへの布石だったと思うのですが、補綴系と小児・育成系の教員に別れてその系統の課題についての評価演習が行われました。具体的には、OSCEの課題が実施されている様子のビデオを見て、各受講者が評価した後、見逃したり、間違った評価をしていないかを検証し、評価上の問題点を挙げるといったものでした。面白かったのは、そのビデオに出てくる受験者が、現実のOSCE受験生とは歳も離れた白髪交じりの機構歯学系OSCE関連委員会の補綴の教授の先生たちであったことです。おまけに、自分の教室の長岡英一教授も受験生として登場されていました。その教授の先生方は、あまり目立たないようにシミュレーションモデルの頭部や白衣、マスクなどの不潔域をグローブを装着して触ったり、テンポラリークラウンの内面に混液比がベチャベチャのレジンを入れつつ支台歯に圧接してからレジンが支台歯に

付着しない時間を見計らってうまく支台歯から撤去したりする受験生を演じられ、とても巧妙に評価の難しい状況を演じられていました。セッションでは、これらの予測しがたい状況をどう評価していくか、実施大学の内部評価者とのすり合わせを外部評価者としてのどのように考え、すり合わせるかを討議するワークショップとなりました。このワークショップの発表は2日目に行うスケジュールとなっており、19時からは学生食堂で懇親会となりました。

2日目は、絶対に遅刻しないようにと前日のアナウンスがあったことから、受講者の皆さんは早く集合し、予定より早く始まりました。前日のワークショップの検討内容の発表と討議が行われ、セッションとして、タスクフォースの代表の先生から、評価方法についての確認とアドバイスがなされました。そこで、少し違和感を感じたのは、受験生が患者に説明する用語についてです。患者にわかりやすく説明出来たかどうかを評価するため、OSCE実施大学で使って良い用語と使ってはいけない用語を決め、それをすり合わせて評価します。しかし、外部評価者自身の大学において使用可の用語がOSCE実施大学では使用不可の用語である場合もあり、その評価にジレンマを感じました。例えば、このワークショップ仮想の小倉歯科大学では、「インプラント」は受験生が使用して良い用語でしたが、「義歯」は使用してはいけない用語で「入れ歯」などが適当な用語でした。各大学での教育が異なる中で評価基準を一致させることが重要なのは承知していますが、患者あるいは国民に標準的な専門用語を周知することも我々の説明等を理解してもらいやすくなるために必要ではないかと思われま

す。セッションでは、外部評価者の役割について検討するワークショップでした。外部評価者は、事前に内部評価者間での評価のすり合わせが的確に行われているかの確認、決められたローカルルールの確認、列間動線の均一性やテストランでの流れのチェックなどをOSCE実施大学にフィードバックする必要があることが取り上げられ、機構やモニターに対して、資源の充足状況や問題点、評価公平性の一貫性、すり合わせしても評価しにくかった事項などの情報をフィードバックすべきであることが示されました。

最後に、外部評価で派遣される場合の事務的説明と認定証の授与をもってワークショップは閉講しました。私自身は、このワークショップが終了して6ヵ月が経過しますが、もうすでに外部評価の派遣大学と派遣日が決定されています。この参加報告を書くにあたって、ワークショップの復習ができました。派遣先での外部評価で役に立つフィードバックができればと思っています。